20（　）年（　）月職員会議資料（小学校版）

**【不登校対策委員会だより No.５】**



　残暑厳しいところから始まった2学期も，あっという間に残り1か月。かぜやインフルエンザに気を付けながら，待ちに待った冬休みを迎えたいですね。

冬休みに入ると，まもなくして新しい一年が始まります。新年を迎えるに当たり，新たな目標を立てる児童も多いことでしょう。不登校児童の中にも「年明けからは登校し，教室に入りたい」と思う子がいるかもしれません。今回は，児童を教室に向かわせる場合，どんなことに気を付ければよいのかを考えていきたいと思います。

**【　教室に向かう児童に対し，教員ができることとは？　】**

久しぶりに登校してきた児童Ａ君。先生が「ちょっと教室に行ってみない？」と誘うとＡ君は「うん」とうなずきました。教室に入り，一日を過ごしたＡ君。先生も帰りまで教室で過ごせたことに安心し「このまま，明日も頑張ろう！」と声を掛けました。さて，Ａ君はその日，どんな気持ちでいたと思いますか。少し考えてみましょう。

先生に誘われたから「うん」と言ったけど，最後までいられるかな？

勉強で分からないところがあったらどうしよう？もし，分からないのに当てられたらどうしよう？

みんなは，どんどん勉強が進んでいく。ぼくは，いつになったらみんなに追いつけるんだろう？

休み時間は何をして過ごせばいいかな？独りぼっちだったら寂しいな…



みんな僕に話しかけてくれるかな？でも，話しかけられたら，何て答えればいいだろう？

何とか，一日過ごせた…。疲れたなあ。もし「明日もおいで」って言われたらどうしよう？先生の喜んでいる姿を見ると…

不登校の児童が久しぶりに教室に入ることを決断するというのは，私たちの想像以上に勇気のいることで心のエネルギーをかなり消耗しているかもしれません。そして，一日を全力で過ごし，心のエネルギーがほとんどなくなっている中で「このまま，明日も頑張ろう」と声を掛けられたら…

**【　教室復帰時のポイント①　～ブレーキをかける～】**

　教室復帰を始める時に学校側として大切なのは，本人の気持ちに寄り添い，時には**「ブレーキをかけてあげる」**ことです。周囲の目には「大丈夫だ」と思えても，本人の心のエネルギーは想像以上に減少する可能性があります。そこで，本人の学習状況，体力，友達との関わりなどに注意を払い，どの授業に出るのか，何校時目まで出席するのかを本人とよく話し合いましょう。一度にたくさんの負担を掛けないようにし，少しずつ教室にいられる時間が増えるような支援を計画しましょう。

**【　教室復帰時のポイント②　～教室復帰する前のことを振り返る～　】**

教室登校が安定してきた後も，学校や家庭での様子や，本人との話などから無理なく登校できているのかを確認しましょう。登校が続き，本人に様子を聞くと「大丈夫です」と言われるため，教師側が「もう大丈夫だろう」と安心し，支援の手を緩めてしまうことがあります。しかし，ここで手を緩めてしまうと，再び不登校に戻ることもあります。教室復帰してからも，２～３か月は本人の様子を注意して観察することが大切です。たとえ学校では元気に見えても，帰宅後はぐったりとしていることがあるかもしれません。本人と話す機会を定期的に確保しながら，家庭との連携を大切にして本人の様子を丁寧に把握しましょう。何か気になる様子があったら，すぐに連絡をすることを事前に確認しておき，学校と家庭の間での円滑な情報共有を図りましょう。

学校を休んでいたときの気持ちや状況，学校復帰に至るまでの気持ちなどを，本人が話すことができるようになってきたら，しっかり耳を傾け聞きましょう。自分がどんな力を使ってこの状況を乗り越えたのかに気付いたり，自分を助けてくれる人がいることなどを自覚させたりするチャンスになります。話にしっかりと耳を傾けながら，本人が自分の良さに気付き，これからの生活に生かしていけるように話を進めましょう。

また，不登校児童にとって，周囲のどんな声掛けが支えになったのか，大丈夫だと思えたのはどんな時だったのかなど，その時にしか話してもらえない貴重な情報になります。その子はもちろん，他の不登校児童を支援する際にも役に立つ大切なヒントが得られるかもしれませんので，丁寧に話を聞くようにしましょう。

不登校は，どんな学校にも，どんな児童にも起こり得るものです。支援する際の土台である児童理解を大切に，一人一人に適した支援を講じていきましょう！